

**コマツ**  
**2018年度 第1四半期(4-6月)**  
**決算説明会**  
**【電話会議】**

2018年7月27日(金)

**コマツ出席者**

**執行役員CFO**

**堀越 健**

**執行役員経営管理部長**

**今吉 琢也**

**I. 2018年度 第1四半期(4-6月)決算の概要 <P3-P11>**

P4-5	: 2018年度第1四半期(4-6月)の概況・各セグメント売上高と利益
P6-7	: <建設機械・車両> 2018年度第1四半期(4-6月)の状況
P8	: <リテールファイナンス> 2018年度第1四半期(4-6月)の状況
P9	: <産業機械他> 2018年度第1四半期(4-6月)の状況
P10	: 連結貸借対照表
P11	: KMC*の概況

**II. <建設機械・車両> 需要推移と見通し<P12-P21>**

P13-18	: <建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し(全体及び地域別)
P19-20	: <建設機械・車両> 鉱山機械の状況
P21	: <建設機械・車両> 部品の売上高

**参考資料 <P22-P30>**

P23-27	: 四半期毎の状況
P28-30	: BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

\* KMCは、Komatsu Mining Corp. (旧ジョイ・グローバル社) の略称。

## I . 2018年度 第1四半期（4-6月）決算の概要

※ 損益計算書の組替表示について

2018年度から新年金会計基準を適用したことにより、損益計算書において、勤務費用以外の退職給付費用を「その他の収益(費用)」に計上しています(従来はセグメント利益に計上)。これに伴い2017年度の数値も遡及して組替表示しています。

2017年4-6月期の損益計算書でセグメント利益及び営業利益が7億円減少し、その他の収益が7億円増加しております。

- ・ 連結売上高は前年同期比+15.1%増収の6,460億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+85.8%増益の960億円。売上高営業利益率は同+5.7ポイント増の14.9%。
- ・ 純利益は前年同期比+73.0%増益の629億円。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年4-6月			2018年4-6月			前年同期比	
	¥111.2/USD ¥121.6/EUR ¥16.3/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥108.2/USD ¥130.1/EUR ¥17.1/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	5,612	4,872	739	6,460	5,587	872	+848	+15.1%
セグメント利益(▲損失)	522	660	*2 ▲137	959	849	*2 109	+436	+83.4%
その他の営業収益(▲費用)	▲5	▲5	-	1	1	0	+7	-
営業利益(▲損失)	517	654	*2 ▲137	960	850	*2 109	+443	+85.8%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.2%	13.4%	▲18.6%	14.9%	15.2%	12.5%	+5.7*ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36			▲31			+5	-
税引前純利益	480			929			+448	+93.2%
当社株主に帰属する当期純利益	363			629			+265	+73.0%

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略  
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

\*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

	2017年4-6月	2018年4-6月
PPAによる償却費 ※	▲166億円	▲27億円
統合費用ほか	▲26億円	▲2億円
合計	▲193億円	▲29億円

- 為替レートは、1ドル:108.2円、1ユーロ:130.1円、1元:17.1円です。前年同期比で、ドルに対して円高、ユーロ、元に対して円安となりました。
- 2018年度第1四半期の連結売上高は、前年同期比+15.1%増収の6,460億円、営業利益は+85.8%増益の960億円となりました。なお、この営業利益は四半期としては過去最高です。営業利益率は+5.7ポイント増の14.9%です。
- 純利益は+73.0%増益の629億円です。
- 連結売上高は、物量が増加したことに加え、販売価格差等もあり、増収となりました。
- 営業利益については、物量の増加、販売価格差、KMCの一時費用の減少等により、増益となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+15.4%増収の5,942億円。セグメント利益は+86.9%増益の883億円。セグメント利益率は+5.7ポイント改善し、14.9%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は▲18.8%減収の142億円。セグメント利益は+65.2%増益の54億円。
- ・産業機械他部門の売上高は+6.7%増収の412億円。セグメント利益は+27.4%増益の30億円。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年4-6月		2018年4-6月		前年同期比			
	従来コマツ	KMC	従来コマツ	KMC	増減	増減率		
売上高	5,612	4,872	739	6,460	5,587	872	+848	+15.1%
建設機械・車両	5,150 (5,109)	4,410 (4,370)	739 (739)	5,942 (5,921)	5,069 (5,048)	872 (872)	+791 (+811)	+15.4% (+15.9%)
リテールファイナンス	175 (119)	175 (119)	-	142 (129)	142 (129)	-	▲32 (+9)	▲18.8% (+8.2%)
産業機械他	386 (382)	386 (382)	-	412 (409)	412 (409)	-	+25 (+27)	+6.7% (+7.2%)
消去	▲100	▲100	-	▲36	▲36	-	+64	-
セグメント利益 (▲損失)	9.3% 522	13.6% 660	▲18.6% ▲137	14.8% 959	15.2% 849	12.5% 109	+436	+83.4%
建設機械・車両	9.2% 472	13.8% 610	▲18.6% ▲137	14.9% 883	15.3% 773	12.5% 109	+410	+86.9%
リテールファイナンス	18.9% 33	18.9% 33	-	38.5% 54	38.5% 54	-	+21	+65.2%
産業機械他	6.2% 23	6.2% 23	-	7.4% 30	7.4% 30	-	+6	+27.4%
消去または全社	▲6	▲6	-	▲9	▲9	-	▲2	-

各セグメントの状況：

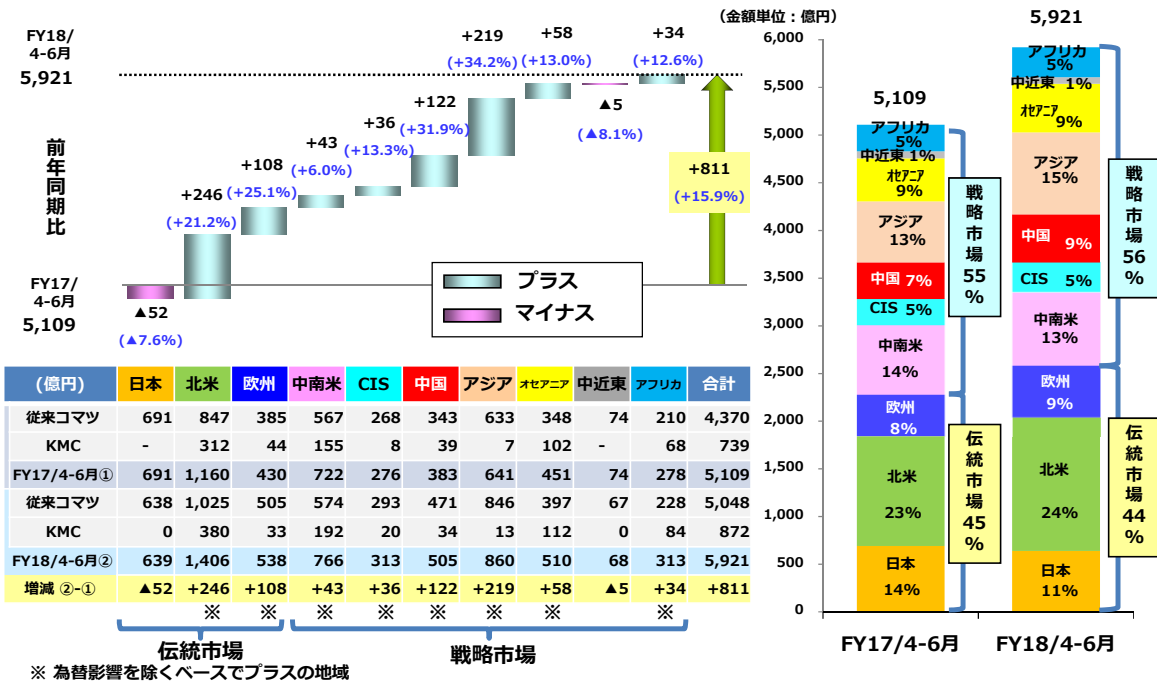
- 建設機械・車両  
北米・アジアなどでの売上増加により増収。物量の増加に加え、KMCの一時費用が減少したことで全体として増益。
- リテールファイナンス  
前年同期にチリにおいてリース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。2016年度に中国で計上した貸倒引当金の戻り益により増益。
- 産業機械他  
好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの売上増加に伴い、全体で増収増益。

□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+15.4%増収の5,942億円、セグメント利益は+86.9%増益の883億円となりました。物量が増加したことに加え、販売価格差等もあり、増収となりました。利益面は、物量の増加、販売価格差、KMCの一時費用の減少等により、増益となりました。

□リテールファイナンスの売上高は、前年同期比▲18.8%減収の142億円、セグメント利益は+65.2%増益の54億円となりました。減収の要因は、前年同期にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことによります。また、増益の主な理由は、中国での貸倒引当金の戻り益によるものです。

□産業機械他の売上高は、前年同期比+6.7%増収の412億円、セグメント利益は+27.4%増益の30億円となりました。好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの売上増加に伴い、増収増益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+15.9%増収の5,921億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は5,048億円。
- ・日本・中近東を除くすべての地域で売上高が増加。特に、北米・アジアなどの売上高が大きく伸長。
- ・戦略市場の比率は56%に上昇。



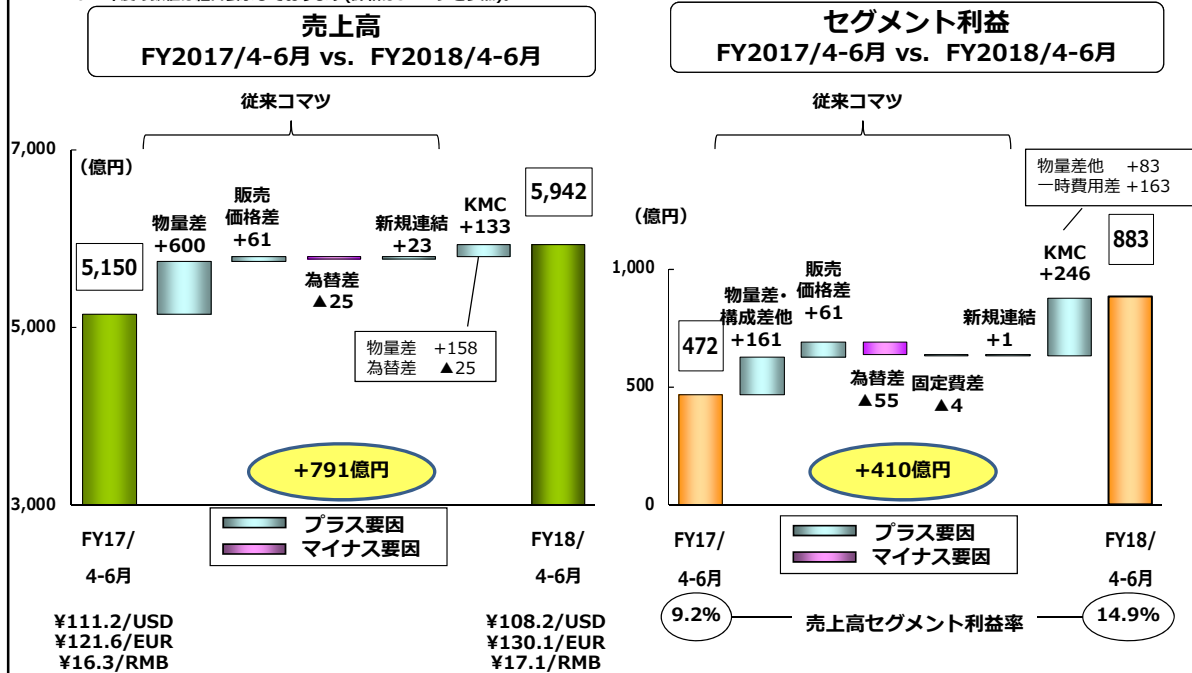
□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+15.9%増収の5,921億円。

□日本・中近東を除くすべての地域で売上高が増加し、特に北米・アジアなどでの売上が伸長しました。

□戦略市場の比率は、前年同期の55%から56%に上昇しました。

- ・売上高は物量の増加に加え、販売価格差等により、前年同期比+791億円の増収。
- ・セグメント利益は物量の増加、KMCの一時費用の減少等により+410億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+5.7ポイント増の14.9%。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

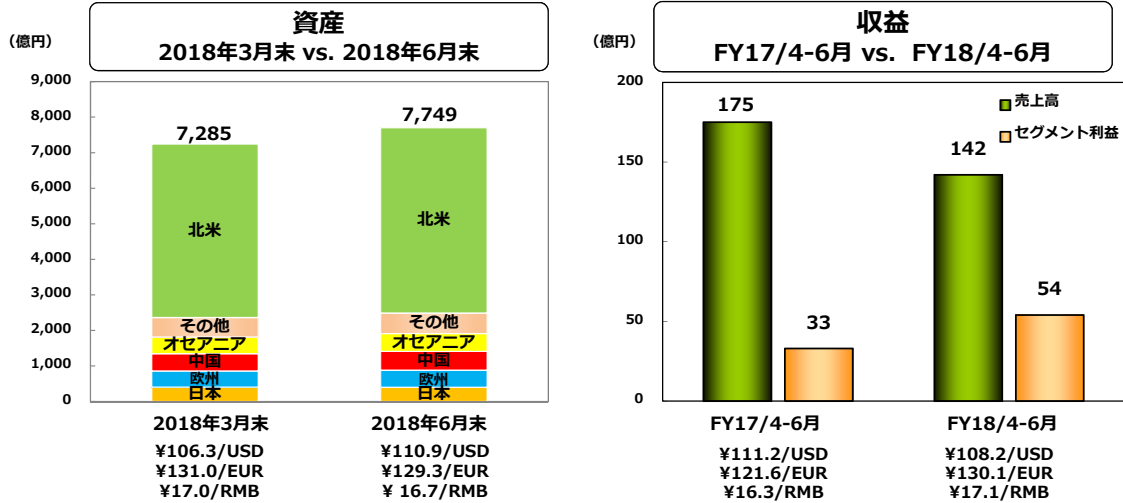


□売上高は、従来コマツの物量増加や販売価の値上げ効果に加え、KMCでも物量が増加したことにより、前年同期比+791億円の増収となりました。

□セグメント利益は為替差でマイナス影響があったものの、物量の増加や値上げ効果に加え、KMCの一時費用の減少等により、売上高セグメント利益率は前年同期比+5.7ポイント改善し、14.9%となりました。

- ・資産は主に北米における販売の増加により、前年度末比+464億円増加。
- ・売上高は北米での資産増加はあったものの、前年同期にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。
- ・セグメント利益は、主に中国での貸倒引当金の戻り益により増益。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。



金額単位: 億円	2018/3E	2018/6E	2018/3E比
借入金	5,460	5,866	+406
ネットベースの借入金	5,426	5,816	+389
ネットD/Eレシオ	3.50	3.59	+0.09ポイント

□リテールファイナンスの資産増加は、主に北米における販売の増加によるものです。

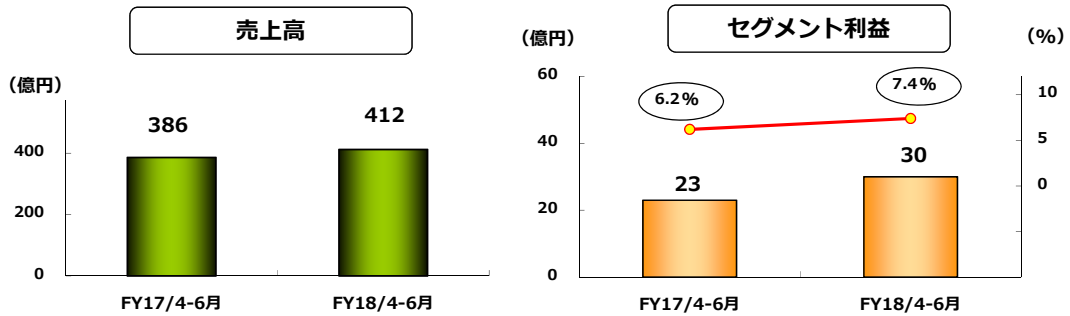
□売上高は北米で資産増加の効果はあったものの、前年同期にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。

□セグメント利益増加の主な理由は、中国での貸倒引当金の戻り益によるものです。2016年度に引当金を計上した債権で、当第1四半期に一部回収が実現しました。



- ・売上高は好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加により、前年同期比+6.7%増収の412億円。
- ・売上高セグメント利益率は7.4%。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。



(億円)	FY17/4-6月	FY18/4-6月	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	90	98	+8	+9.2%
コマツNTC	145	162	+16	+11.6%
ギガフォトン	83	95	+12	+14.7%
その他	67	55	▲11	▲17.4%
合計	386	412	+25	+6.7%

□産業機械他部門の売上高は、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加により、前年同期比+6.7%増収の412億円となりました。

□セグメント利益は前年同期比+7億円増益の30億円、セグメント利益率は前年同期比で+1.2ポイント増の7.4%となりました。

- ・総資産は為替の影響および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+1,083億円の増加。
- ・株主資本比率は前年度末比▲0.7ポイント減の48.7%。

(金額単位：億円) ○：ネットD/Eレシオ	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥ 17.0/RMB	2018年6月末 ¥110.9/USD ¥129.3/EUR ¥ 16.7/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,468	1,477	+9
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	11,550	11,690	+139
棚卸資産	7,302	7,971	+668
有形固定資産	7,405	7,534	+129
その他資産	5,997	6,134	+136
<b>資産合計</b>	<b>33,725</b>	<b>34,809</b>	<b>+1,083</b>
支払手形・買掛金	3,035	2,733	▲301
借入金・社債 [b]	8,105	9,343	+1,237
その他負債	5,147	4,956	▲191
<b>負債合計</b>	<b>16,289</b>	<b>17,034</b>	<b>+745</b>
(株主資本比率)	(49.4%)	(48.7%)	(▲0.7ポイント)
株主資本	16,645	16,967	+322
非支配持分	790	807	+16
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>33,725</b>	<b>34,809</b>	<b>+1,083</b>
→ ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]	○0.40 6,637	○0.46 7,866	+1,228
ネットD/Eレシオ（リアルファイナンス会社を除いた場合）	○0.08	○0.13	

- 総資産は前年度末比で+1,083億円増加しました。主に棚卸資産が増加したことに伴うものです。なお、為替の影響は+613億円あります。
- 棚卸資産については、前年度末比で+668億円増加しました。為替の影響を除いた実質差は+553億円の増加です。これは需要増に対応するための在庫積み増しによるものです。
- 借入金・社債は、前年度末比で+1,237億円増加の9,343億円となりました。これは、棚卸資産の増加に加え、サプライヤーへの支払を早期化したことが影響しています。
- 株主資本比率は前年度末比▲0.7ポイント減の48.7%となりました。

2018年度 第1四半期(4-6月)KMCの概況

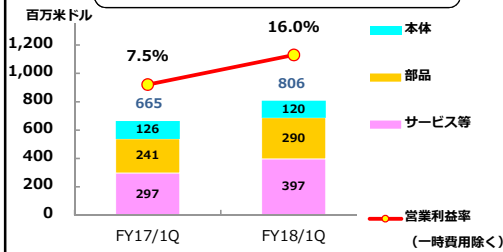
- ・売上高は、前年同期比+18.0%増の872億円。
- ・一時費用除く営業利益は139億円、一時費用▲29億円を含む営業利益は109億円。

2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

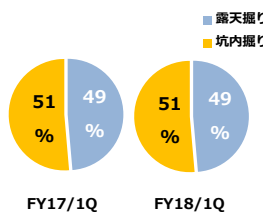
(金額単位：億円)	2017年4-6月		2018年4-6月		前年同期比	
	(¥111.2/USD)	(¥108.2/USD)	増減	増減率	増減	増減率
売上高	739	872	+133	+18.0%		
本体	141	129	▲11	▲8.5%		
部品	268	314	+46	+17.2%		
サービス等	331	429	+98	+29.6%		
営業利益 <一時費用除く>	7.5% 55	16.0% 139	+83	+152.7%		
一時費用 (マイナスで表記)	▲193	▲29	+163	-		
PPAによる償却費 ※1	※2 ▲166	▲27	+139	-		
統合費用ほか	▲26	▲2	+24	-		
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲18.6% ▲137	12.5% 109	+246	-		

※1：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き  
 ※2：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲129億円

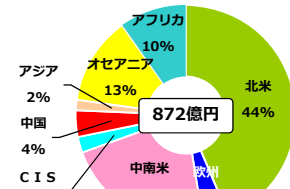
四半期別売上高・営業利益率の推移 (米ドルベース)



セグメント別売上高



FY18/4-6月 地域別売上高

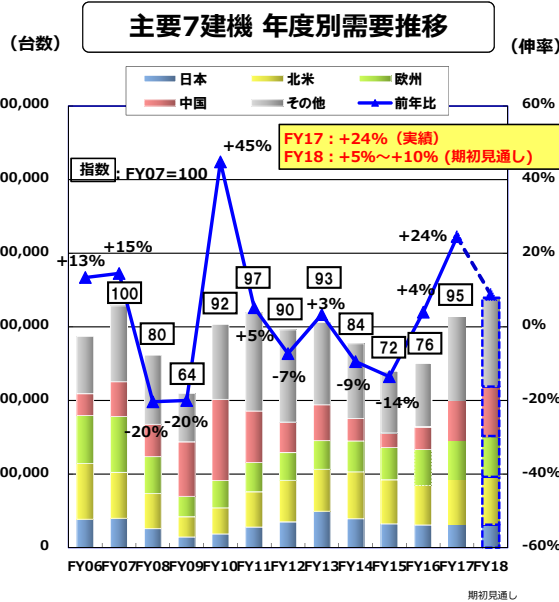


- 2018年度第1四半期のKMCの売上高は、前年同期比+18.0%増の872億円となりました。うち、本体は前年同期比▲8.5%減の129億円と減収となりましたが、部品は前年同期比+17.2%増の314億円、サービス等は前年同期比+29.6%増の429億円と増収となりました。
- 一時費用除く営業利益は139億円、また一時費用▲29億円を含めた営業利益は109億円となりました。
- 一時費用は前年同期比163億円の減少となりました。
- セグメント別の売上高比率は、前年同期と同じく、露天掘りが49%、坑内掘りは51%でした。
- 地域別売上高のうち、北米の割合は44%で、前年同期の42%から若干増加しました。

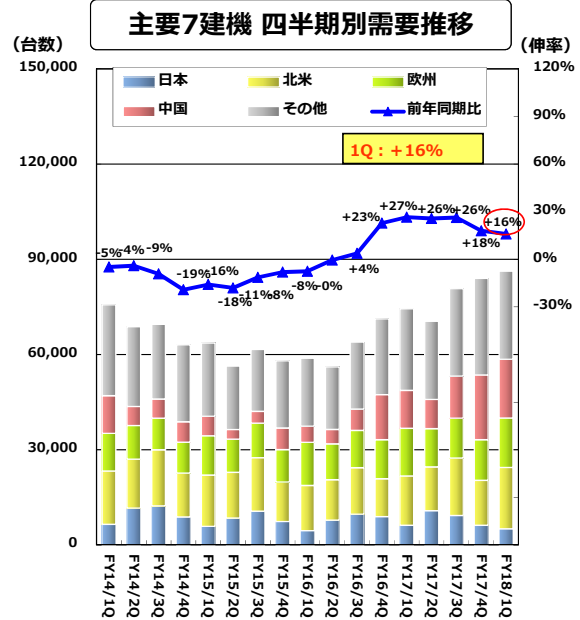
## Ⅱ. <建設機械・車両> 需要推移と見通し

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+16%増加。
- ・第1四半期は、北米、中国、インドネシアの需要が大きく増加。
- ・年間の需要見通しは、全体として期初見通しから変更無し。



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定



□主要7建機および鉱山機械の需要につきましては、従来コマツのベースでの推移を表しています。13ページから19ページまでが該当します。

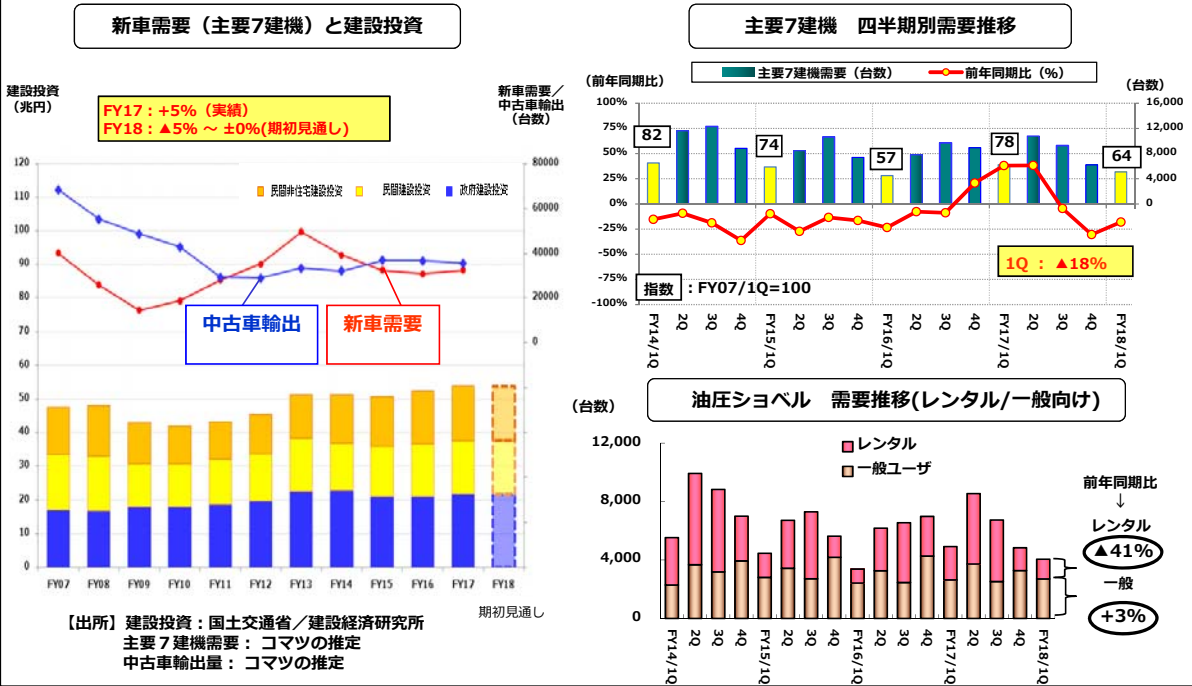
□2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+16%の増加となった模様です。

□第1四半期は、北米、中国、インドネシアなどの需要が大きく増加しました。

□年間の需要見通しは、期初見通しから変更ありません。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

- ・ 2018年度第1四半期の需要は、前年同期比▲18%減少。
- ・ 国内排ガス規制による駆け込み需要の反動減により、レンタル向け需要が大きく減少。

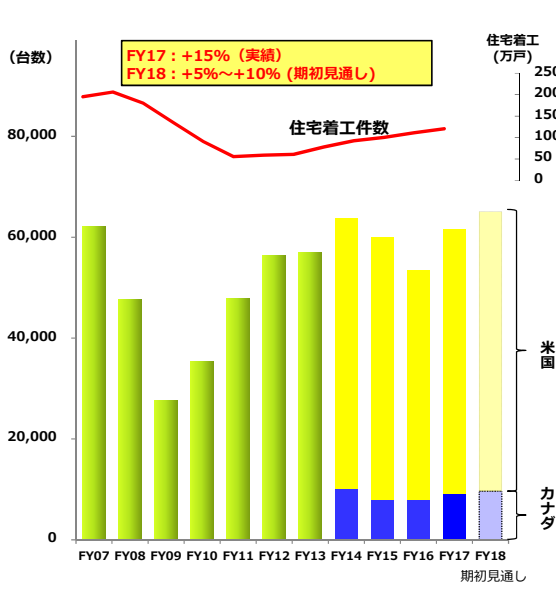


□2018年度第1四半期の日本の需要台数は、前年同期比▲18%減少となった模様です。

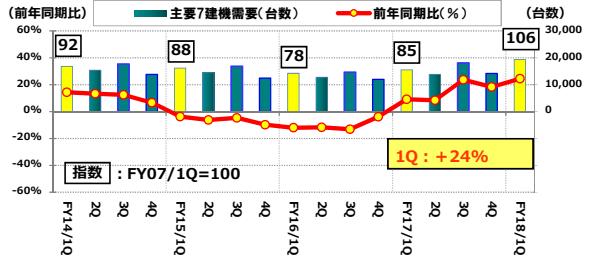
□国内排ガス規制による駆け込み需要の反動減により、レンタル向けの新車需要が大きく減少しました。

- ・ 2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+24%増加。
- ・ 米国において、建設、エネルギー分野を中心に需要が増加。
- ・ カナダにおいては、住宅・非住宅ともに堅調に需要が推移。

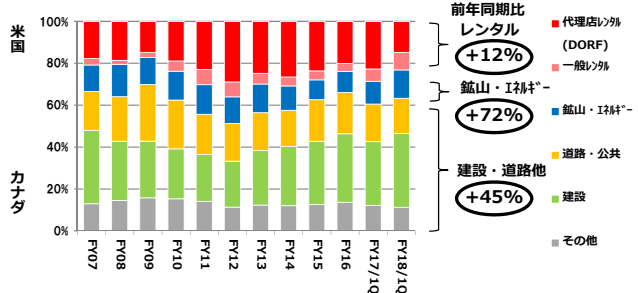
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



セグメント別需要構成比(台数ベース)



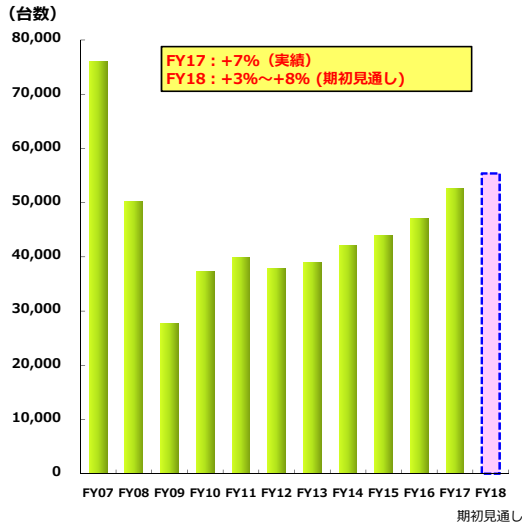
□ 2018年度第1四半期の北米の需要は、前年同期比で+24%増加の2万台弱となった模様です。これは、過去のピークの2005年第1四半期に次ぐ高い水準です。

□米国の需要は、建設、エネルギー分野を中心に堅調に推移しました。

□カナダでは、住宅・非住宅分野とも需要は堅調に推移しました。

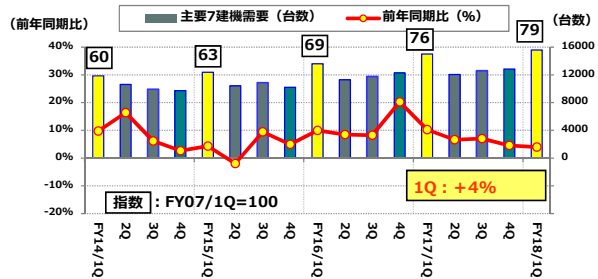
- ・ 2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+4%増加。
- ・ 引き続き、主要市場であるドイツに加え、英国、東欧が堅調に推移。

主要7建機 年度別需要推移

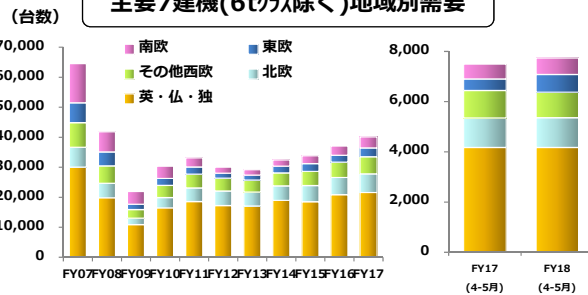


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



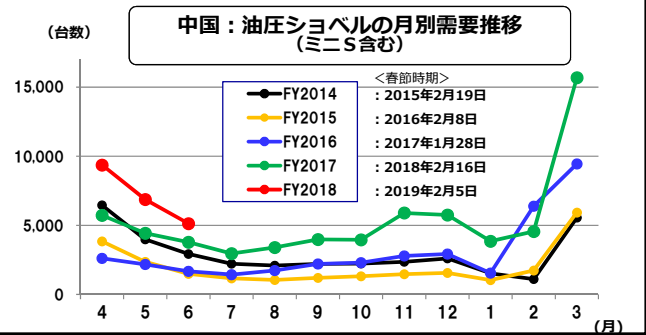
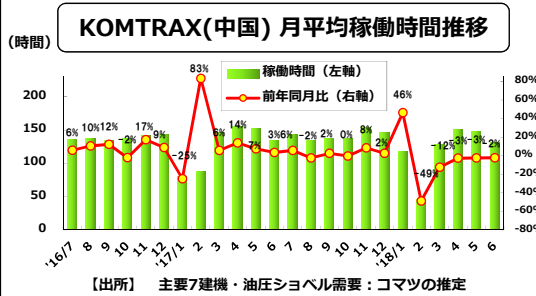
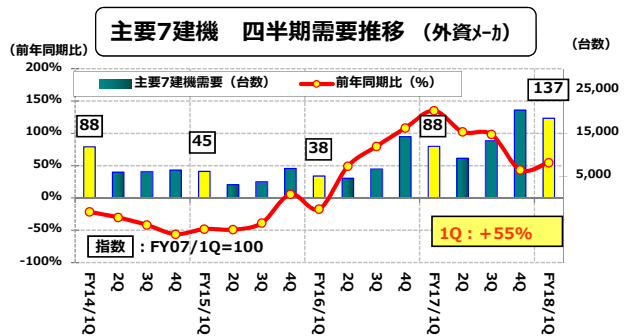
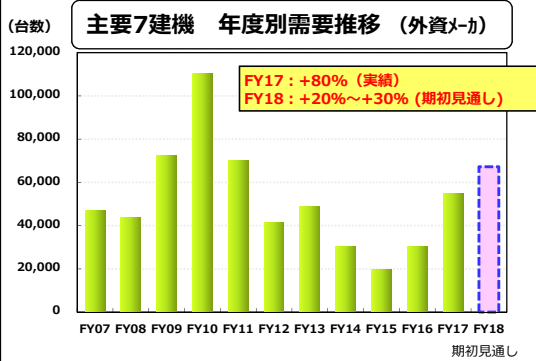
□2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+4%増加となった模様です。11四半期連続の需要増となりました。

□引き続き、主要市場であるドイツに加え、英国、東欧が堅調に推移しました。



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④中国

- ・2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+55%増加。
- ・前年度に引き続き、インフラ工事が進行し、一般建機需要が伸長。

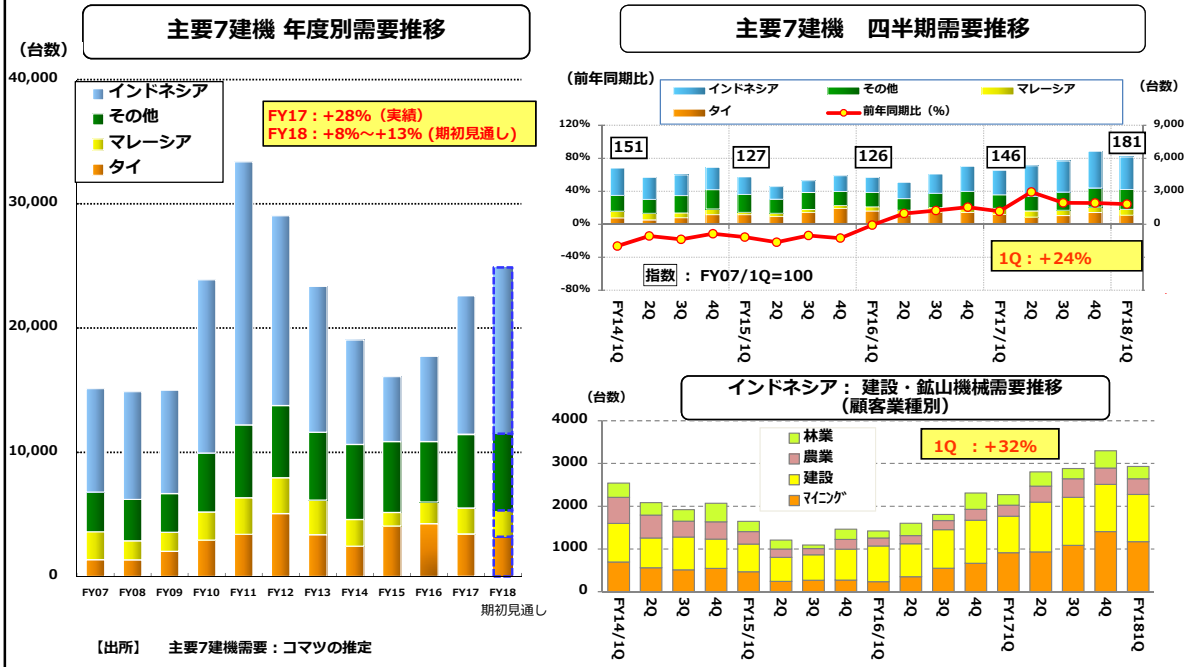


□2018年度第1四半期の中国の需要は、前年同期比+55%増加となった模様です。

□全国的にインフラ工事が進行していることにより一般建機の需要が伸長しました。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：⑤東南アジア

- ・2018年度第1四半期の需要は、前年同期比+24%増加。
- ・最大市場のインドネシアでマイニングおよび建設機械の需要が増加。タイの需要は減少傾向。



□ 2018年度第1四半期の東南アジアの需要は、前年同期比+24%増加となった模様です。

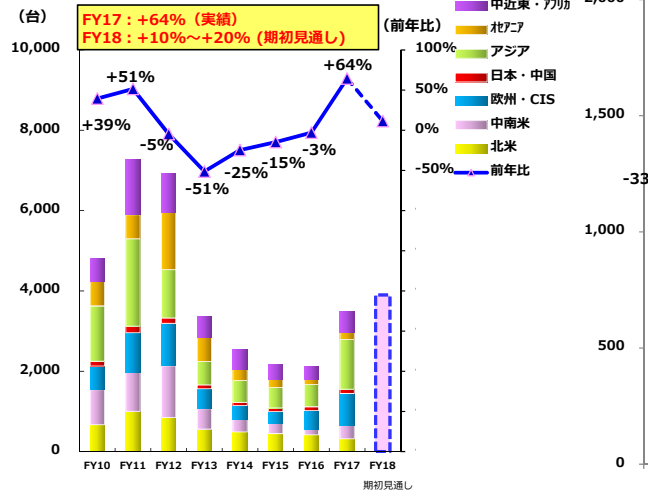
□ 最大市場のインドネシアでは、一般建機はインフラ投資の拡大、マイニングは資源価格の上昇により需要が増加しました。一方でタイの需要は引き続き減少傾向です。

<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

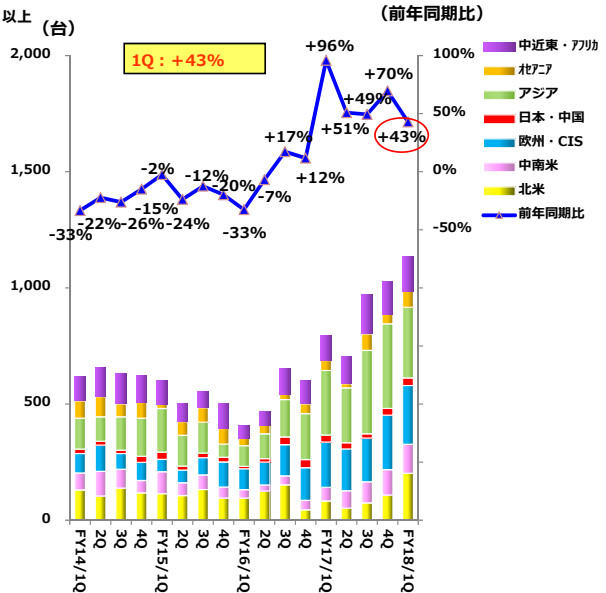
- ・2018年度第1四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+43%増加。
- ・北米、インドネシアなどで需要が増加。
- ・年間の需要見通しは、全体として期初見通しから変更無し。

鉱山機械 年度別需要推移

・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブローザ：525HP (D375) 以上  
 ・エクスキャバタ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダ(機械駆動)：810HP (WA800) 以上 (台)  
 ・モーターローダ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移



□2018年度第1四半期の鉱山機械の需要は前年同期比+43%の増加となった模様です。

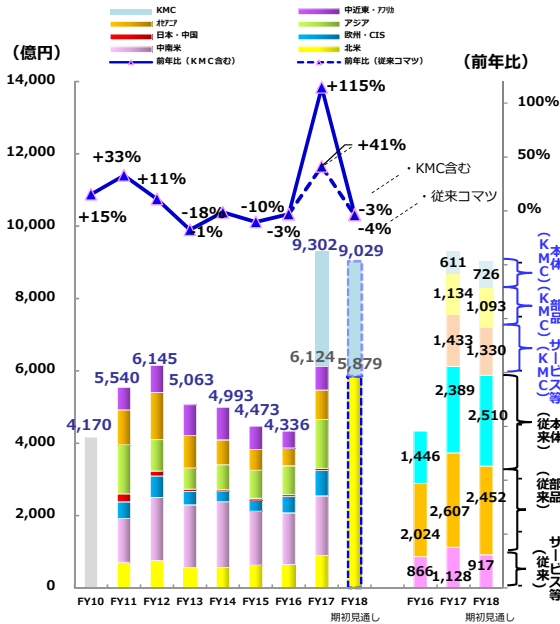
□地域的には、特にインドネシア、北米、中南米、大洋州等の伸びが大きくなっています。

□製品別には、インドネシア等の大型の鉱山機械に加え、超大型の鉱山機械についても回復してきています。

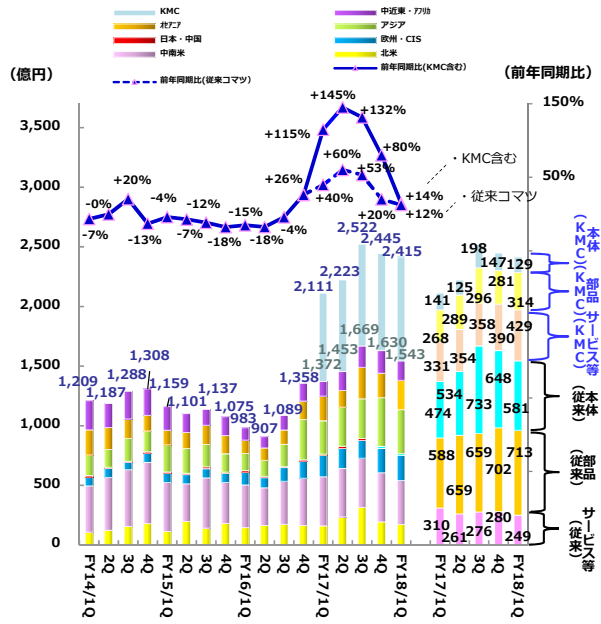
□2016年度第3四半期以降、前年同期と比較すると連続7四半期、需要が増加し、鉱山機械市場は順調に拡大しております。

・2018年度第1四半期の売上高は、前年同期比+14%増の2,415億円。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+12%増の1,543億円。  
 ・インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、全体で本体、部品、サービスともに売上が伸長。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



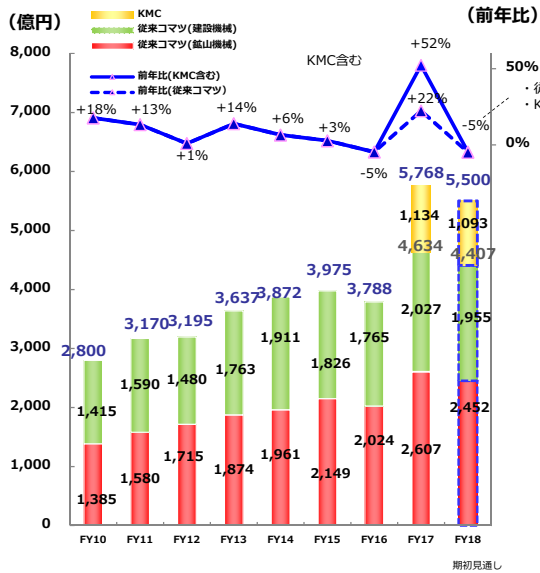
□当ページでは、2017年度からKMCを含めたベースでの鉱山機械の売上高を表しています。

□2018年度第1四半期の売上高は、全体として、前年同期比+14%増の2,415億円となりました。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+12%増の1,543億円となりました。

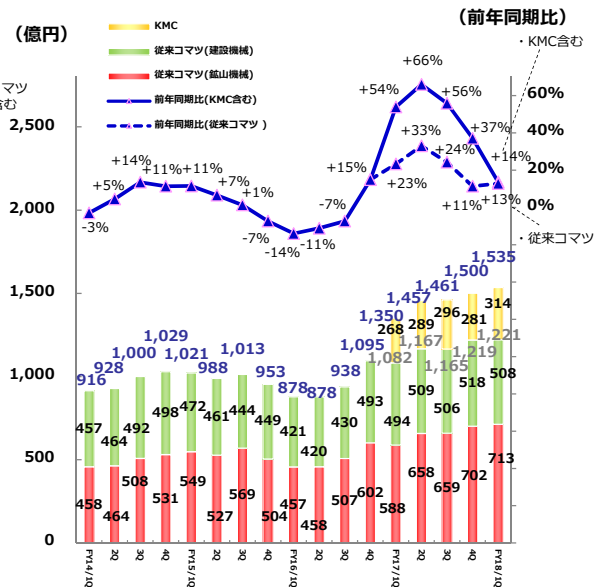
□インドネシアなどでの需要増加により、本体、部品、サービスともに売上が伸長しました。

・2018年度第1四半期の部品の売上高は、前年同期比+14%増の1,535億円。KMCを除く従来コマツの売上高では、+13%増の1,221億円。

部品売上高



四半期別 部品売上高推移

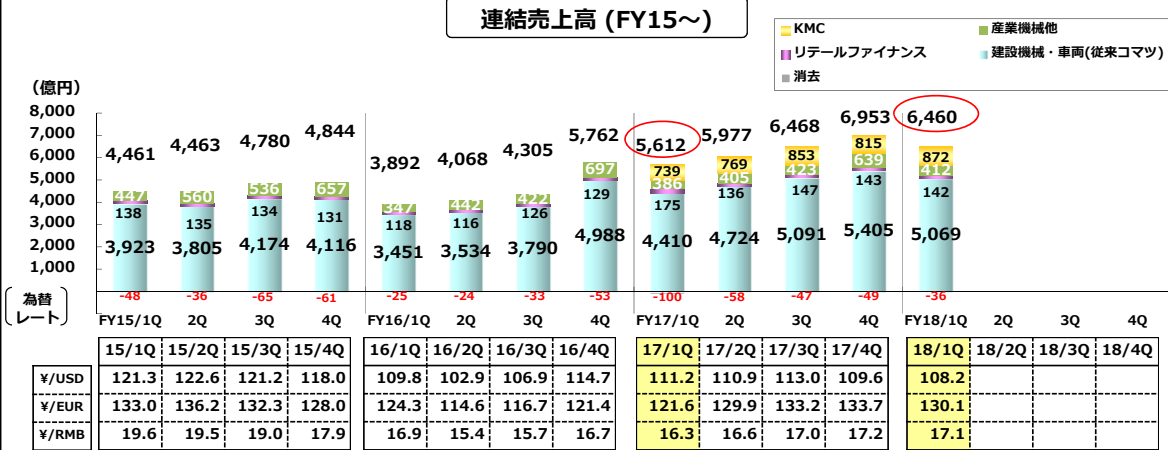


□2018年度第1四半期の部品の売上高は、前年同期比+14%増加の1,535億円となりました。為替の影響を除くと+16%の増加です。内訳は従来コマツの一般建機が+4%増、鉱山機械は+24%増、KMCは+21%増です。

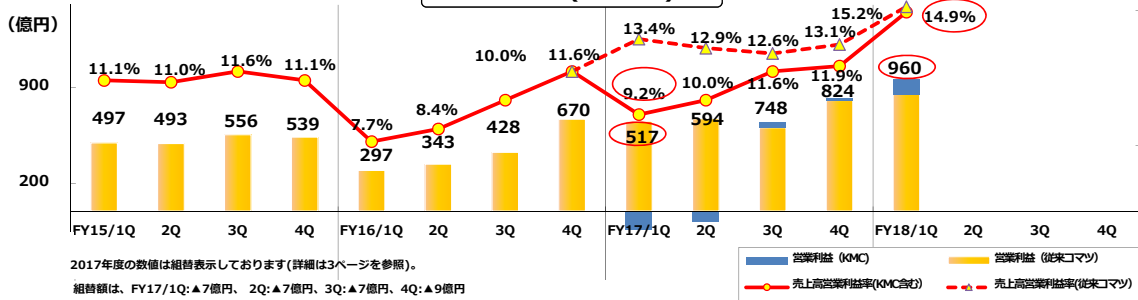
**參考資料**

【参考資料】  
四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY15~)



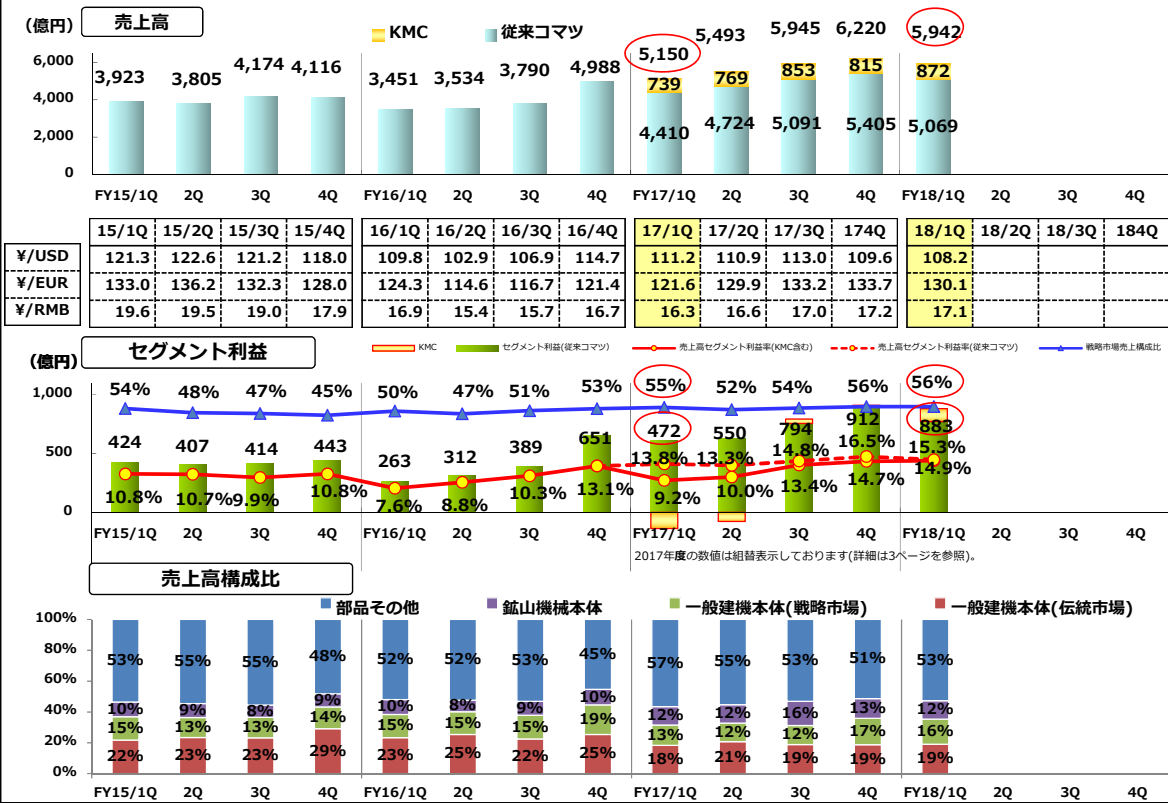
営業利益 (FY15~)



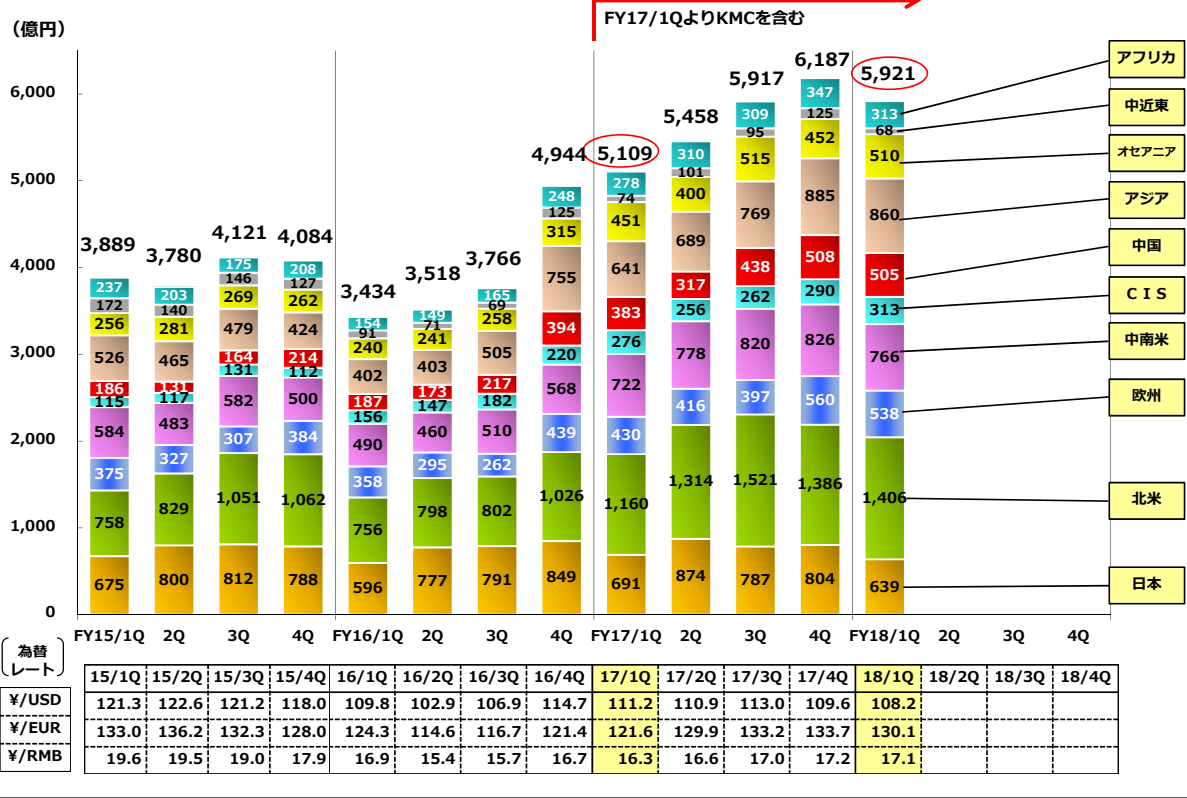
2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

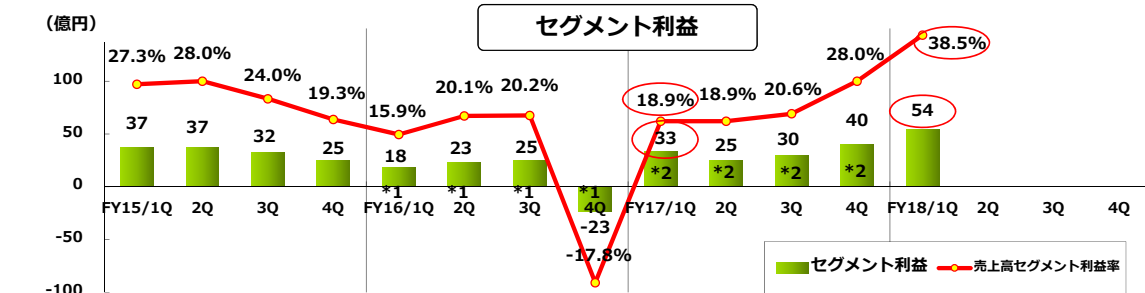
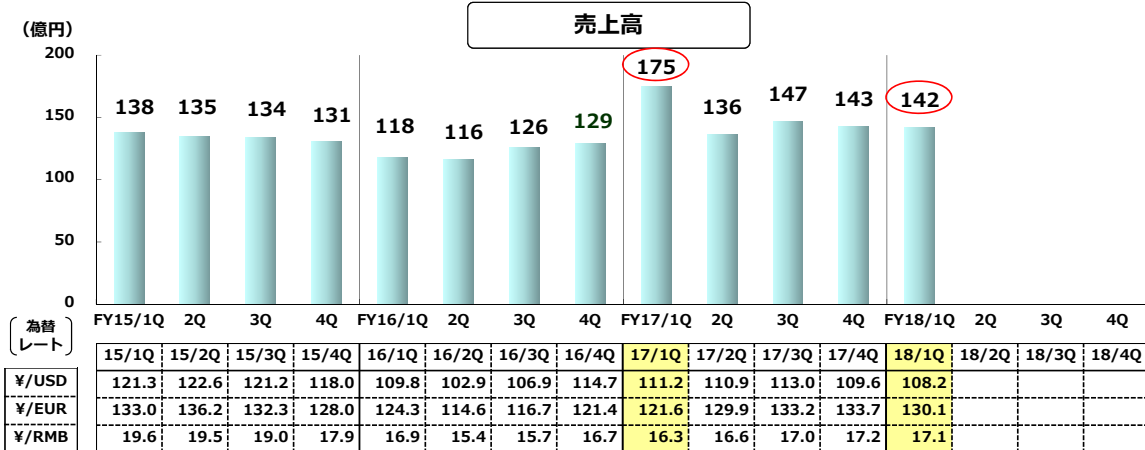
組替額は、FY17/1Q:▲7億円、2Q:▲7億円、3Q:▲7億円、4Q:▲9億円

<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

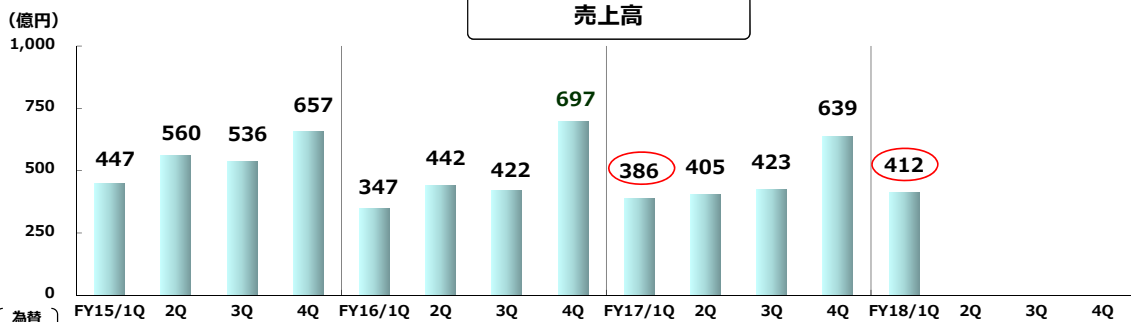




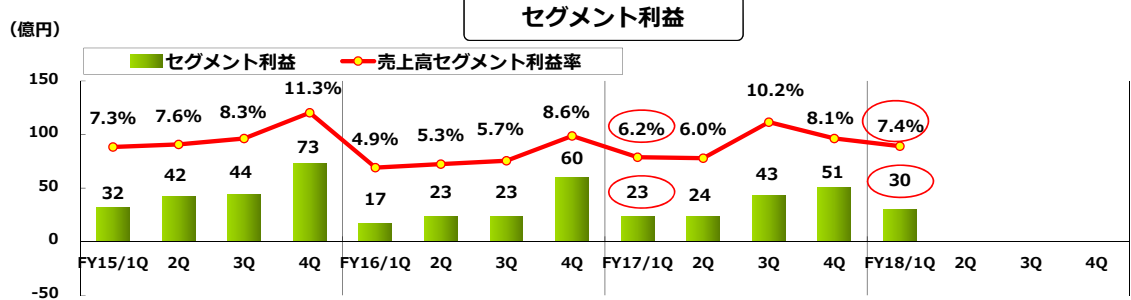




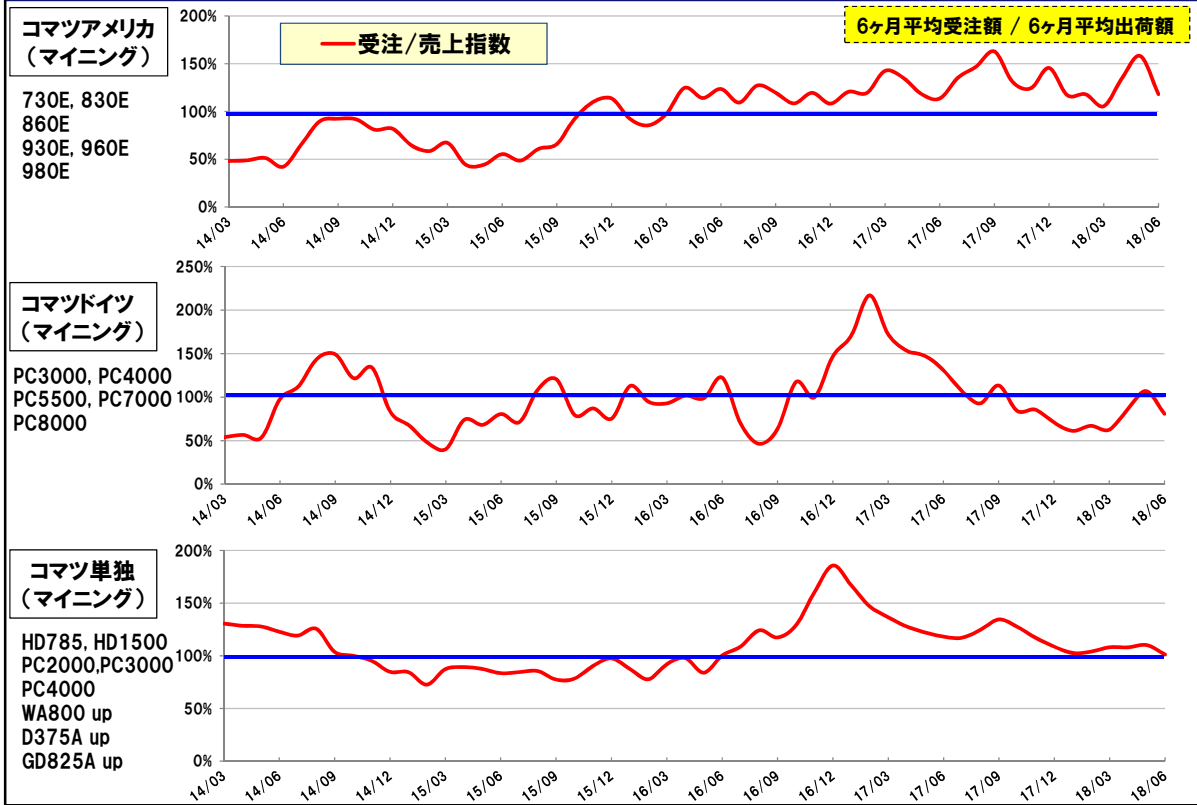
\*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)  
 \*2 2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。



為替レート	FY15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2			
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1			
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1			

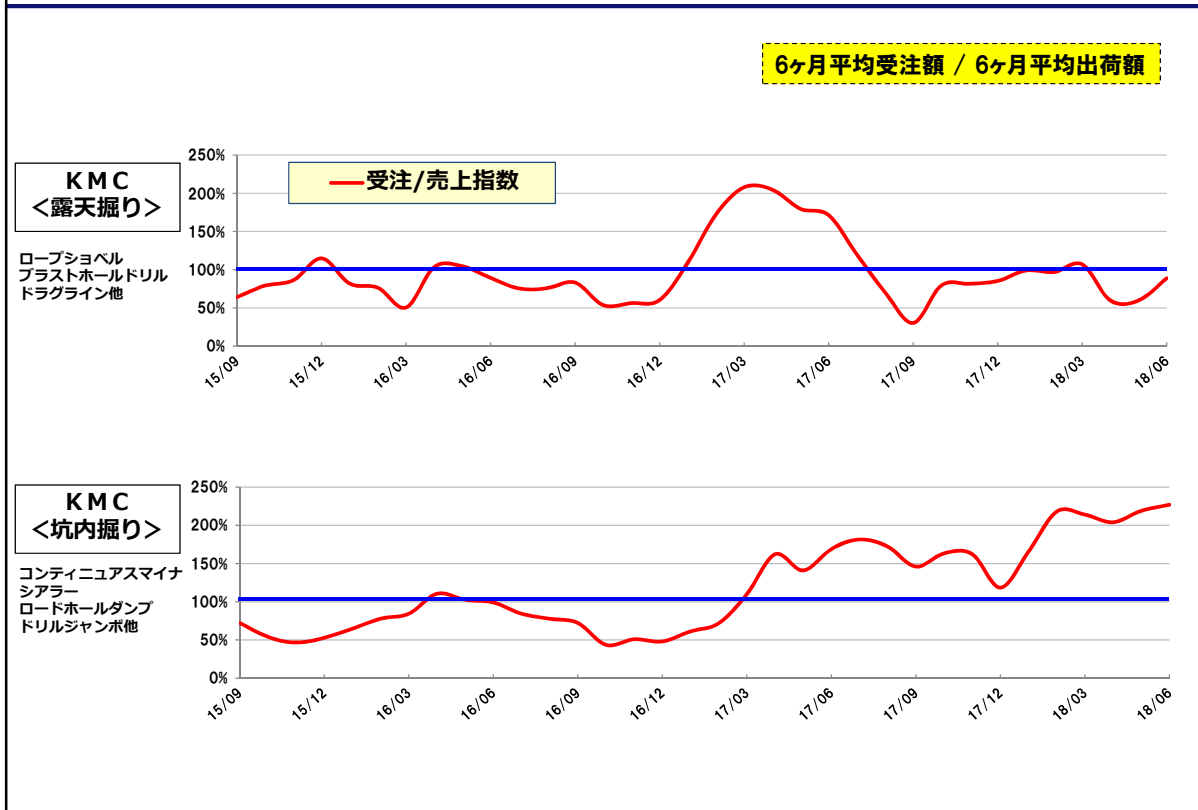


2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。



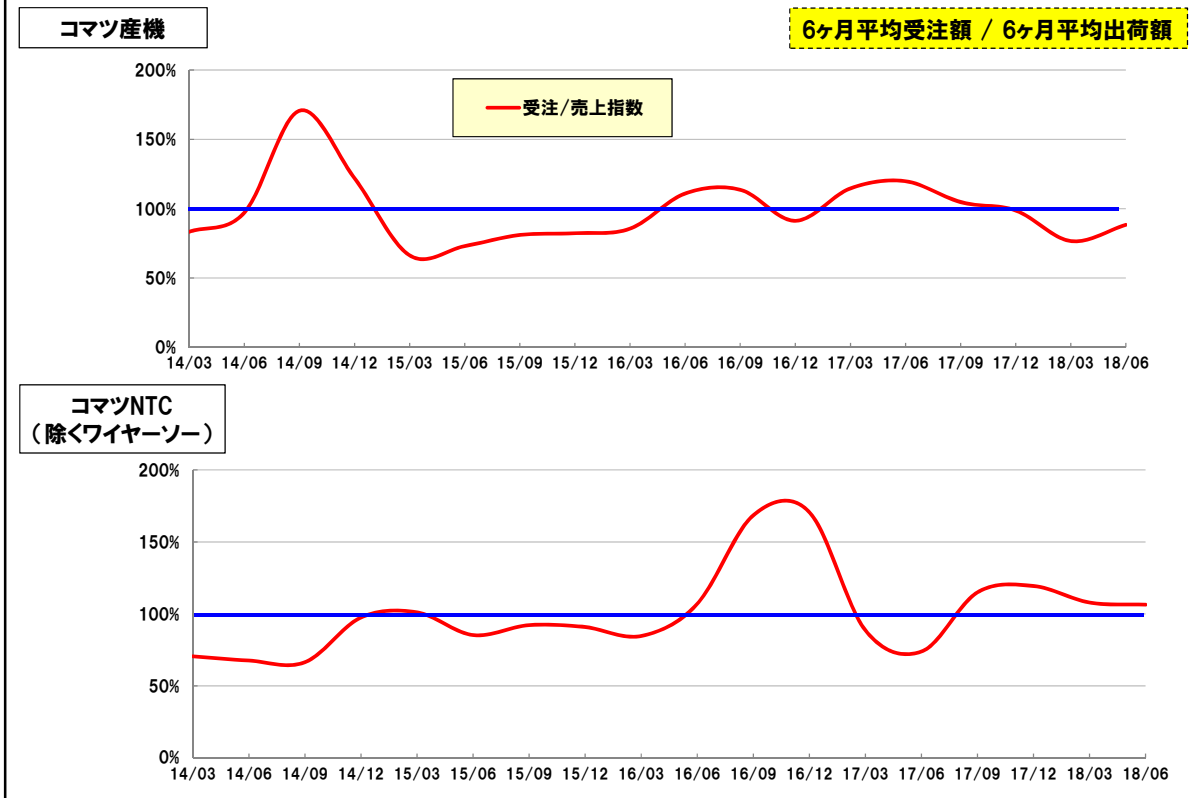
鉱山機械本体の受注と売上の指数の推移を示しています。

グラフは直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



□ KMC製の鉱山機械本体の、2015年9月以降の受注と売上の指数の推移を示しています。

□ 上段がロープショベルやブラストホールドリルなどの露天掘り機械について、下段がコンティニュースマイナやシアラーなどの坑内掘り機械についての指数の推移です。



- 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。
- グラフは直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

・コマツが、認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」と提携し、2008年より行ってきたカンボジア王国バタンバン州での地域復興支援プロジェクトが10周年を迎えました。本年5月22日に、現地で記念式典が開催され、州副知事をはじめ、地域の方々、CMAC(カンボジア地雷除去センター)、JMAS、コマツ関係者の約800名が参加しました。



道路整備中のJMAS・CMACの隊員と野路会長(左から6番目)



式典後に、プロジェクトで建設された8校の小学校による合同運動会が行われ、300名の生徒が参加しました。



□コマツ(社長:大橋徹二)では、認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会(理事長:荒川龍一郎/以下JMAS)」と提携し、2008年より行ってきたカンボジア王国バタンバン州での地域復興支援プロジェクトが10周年を迎えました。

□10年間における活動累積実績は、地雷処理数1,360個、処理面積1,735ha、道路整備62km、建設小学校8校(全生徒数572名、2017年12月時点)、溜池46個となりました。

□本年5月22日に、現地で10周年記念式典が開催され、州副知事をはじめ、地域の方々、CMAC(カンボジア地雷除去センター)、JMAS、コマツ関係者の約800名が参加しました。コマツからは、会長の野路が参列しました。また式典後には、プロジェクトで建設された8校の小学校による合同運動会が行われ、約300名の生徒が参加しました。

□コマツは、今後もカンボジアとラオスにおける対人地雷や不発弾の除去活動、ならびに地域復興支援プロジェクトを継続して支援していきます。



【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687  
FAX: 03-3582-8332  
<https://home.komatsu.jp/>